

■安積中学校■安積高等学校在京同窓生

東京桑野会会報

●1992年4月1日発行●発行・編集人 澤田 悌●発行所 東京桑野会事務局 〒160 東京都新宿区新宿1-3-8YKB新宿御苑804



水口莊介先生 画



東京桑野会会長 澤田悌

ご挨拶

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何んらかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

東京桑野会会報を会員各位にお届けいたします。想えば長い歴史を有つ東京桑野会に、初めて会報が誕生したのは昭和57年4月で、31期卒業の壁谷祐之さんが会長の時でした。その誌上で壁谷会長は、「名簿作成と会報発行の二つは会の発展の上から幹事の使命として考慮していたことである。(中略)会員の協力で育て上げてゆきたいものだ。」と云っておられる。以来編集関係者の努力によって毎年発行が続けられ、内容も次第に充実して今回の第14号に至ったことはご同慶の至りで、各位のお骨折に深く感謝いたします。

さて今年度の東京桑野会の総会は、別掲の通り陽春4月16日に椿山荘において開催の予定ですが、前総会以後の1年間の内外の情勢を回顧いたしますと、あの激動の前年を更に上廻る激しい変化でした。特に69年間続いた共産主義ソ連邦が崩壊

して、独立国家共同体が発足したこと、国内では所謂バブルが崩壊して我が国経済が様変わりしたこと、大小の差はあっても共に崩壊と呼ばれ、今後の成り行きは猶注目を要する状態に在ります。

しかしこのように難しい時代に在っても、わが安積の母校に学んだ東京桑野会の各位が、首都圏の各方面でお元気に活躍されていることは心強い限りであります。母校の校歌にも「磐梯の嶺荒ぶとも阿武隈の水狂うとも、義を見て勇む雄叫びにいかで勝らむ益荒雄よ…」と歌われていることを今強く思い起す次第です。

来るべき4月の総会には例年にも増して多数の各員のご来会を心からお待ちしております。そして盛大な懇親会において故郷と母校を偲び共に飲み共に歌って歓を尽したいと思ひます。

各位のご健康を祈り、ご挨拶といたします。

東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会の一年のメインイベントである、定期総会と会員の懇談会を開催いたします。

会報の一面にもありますように、同窓生の親睦を図り、仲良く親しい会員の頼りになるような会にするためにも、できるだけ多くの方々が参加されますようご案内申し上げます。

- 期 日 1992年(平成4年)4月16日(木)
- 時 間 午後5時—受付開始
午後6時—総会
午後6時30分—懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件
2. 予算決算の件
3. その他
- 場 所 目白 椿山荘
東京都文京区関口2-10-8 (TEL 03-3943-1111)
JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
- 会 費 懇親会費8,000円(学生3,000円)
1992年度会費2,000円

なお、当日出席出来ない方は、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みをお願いします。

◇準備の都合もありますので、出欠の返事を同封の葉書で3月末日までにご返送下さいますよう申し上げます。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、恩師やお知り合いの方、特に若い期の方もお誘い合わせのうえ、多数のご出席をお願いいたします。

◇昨年度は、1991年4月16日に開催され、200名を越える参加者がありました。年毎に盛会になりつつあります。前回は上回る参加を期待します。

◇年度会費2,000円は、会の運営のために是非必要なもので、ご欠席の方は同封の振込用紙でお振込み願います。

会 員 動 向

■計 報

●矢吹 陸郎氏(45期、本会副会長、南浦和病院理事長・名誉院長)は1991年10月10日逝去されました。葬儀は浦和市の文珠寺で執り行われ、東京桑野会からも澤田会長・土屋幹事長始め多数が参列しました。

矢吹先輩は、創設期から会の中心として発展に多大な尽力をされました。長年にわたる会へのご貢献に対して感謝し、ご冥福をお祈り致します。

澤田会長と同期の佐藤静司氏からは氏を悼む文を寄せて戴きました。

●高田 秀二氏(42期、元共同通信社常務理事、元日本記者クラブ理事長)は1992年2月15日逝去されました。氏は共同通信社の編集局長の後1968年から常務理事をつとめられ、わが国の言論界に大きな貢献をされました。

先年亡くなられた斎藤信也氏とともに安積出身のジャーナリズムの二つの大きな星を失いました。

「…年をとるとだんだん仲間が死んでいく。ことに信也のように少年時代からの心友を失うのは悲しい。信也よあの世で心おきなく酒をのんでくれ、いずれ私も酒席に加わるから。」(会報10号(1988)高田氏寄稿「筆友・信也を偲ぶ」)

■受 賞

●本田 安次氏(36期、元文化財保護審議会専門委員)は、「伝統文化ポラ大賞」を受賞されました(1991年10月11日)。


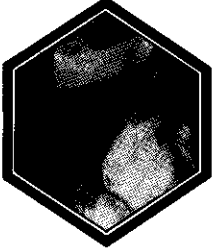
この賞は、わが国の無形の伝統文化

※外相館まで
竹花則栄(55期卒)

CHINZAN SO
椿山荘
東京都文京区関口2-10-8
TEL 03(943)1111
◎藤田鏡光

■大小23のご披露宴会場。
■800名様までの日本料理・フランス料理着席ご披露宴。
■庭園での記念写真も随時お撮りいただけます。
■チャペルの挙式もできます。
■最新機能の音響・照明設備。

華やかな「宴」のとき。



凡今、ご婚礼・ご宴会ご予約承り中。

に関し、永年の努力と精進によって優れた業績をあげた個人または団体に対して贈られるもので、民俗芸能研究の第一人者本田先輩の60年余に及ぶ「民俗芸能の発掘・公開・保存・振興」に果たした功績が高く評価されたものです。

●佐藤 静司氏(45期、彫刻家・日展評議員)は、佐藤栄佐久福島県知事より、「県外在功労者知事表彰」を受賞されました(1991年11月23日)。

氏は改めて紹介するまでもなく、安積の新しいシンボル・母校旧本館玄関前のブロンズ像「安積健児像」を創られた彫刻家です。

東京桑野会では、佐藤氏にお願いして「安積健児像」ブロンズ・レリーフを制作していただき、実費で頒布しております。

■美術館と出版

●谷本 滋朗氏(63期、谷本税務会計事務所)は、モンティセリの作品に憑かれ1988年から『サロン・フルール』を始めておられますが、この度モンティセリの解説書(日本語による最初のもの)を自費出版されました(1991年11月26日)。

- ・書名 「モンティセリ」
- ・編集 モンティセリ友の会谷本滋朗
- ・発行 株式会社 谷本
TEL 03-3664-6711

谷本氏のモンティセリへの熱中度については、既に会報第12号(1990/4)でご紹介の通りですが、最新刊の「うちの美術館」(田島三津雄編新潮社刊)のなかで「特色のきわ立つ全国103の美術館」の一つに取上げられております。

■出版・著書

●並木 謙氏(63期、ダイヤ建設法務室長)は、「80年代の不動産」復刻保存版を自費出版されました(1991年10月28日)。

氏の不動産ジャーナリストとして、実務家としての持論を展開されて「80年代の不動産」を1980年に出版されて11年、その後「不動産学部」新設の世ともなり「不動産文化論」の提言・予見の論証・実証が見られたと、ここに復刻保存版を刊行されました。

東京桑野会へも百部のご寄贈を戴きました。御礼申し上げます。

●門馬 晋氏(61期、多摩大学教授、元読売新聞論説委員)著

「編集手帳」抄一時代のプリズム

- ・発行日 1991年12月26日
- ・発行所 読売新聞社

門馬氏が論説委員の時代に10年にわたって書き継がれた、読売新聞の一面の顔「編集手帳」のうちの296編が抄録されております。

「門馬さんは、長く社会部記者として取材経験を重ね、婦人部長、社会部長を歴任して、戦後の読売新聞の四代目の編集手帳子となりました。国際化、高齢化、情報化時代が急ピッチで進行する1980年代のちょうど十年間の世相の変化を、コラムを通じて見守り、読者と喜怒哀楽を共にしました。

『人を愛し、酒を愛する』職人的な名物記者として読売史にその名を残しています。」(読売新聞社論説委員会委員長 長島 脩氏・同書より)

珠玉の名編のなかから、2編を転載して紹介させて戴きます。

●矢吹 晋氏(70期、横浜市立大学教授)著

「毛沢東と周恩来」

- ・発行日 1991年10月20日
- ・発行所 講談社(現代新書)

「今こそ朝河学を」をご寄稿戴いた現代中国論の専門家・矢吹氏の興味あるタイミングの二人の素顔。朝日新聞の<読者>欄からの書評を転載させて戴きました。

■異 動

●橋本 逸男氏(79期)は、内閣審議官から駐スリランカ大使館参事官に栄転されました(1991年7月19日付)。時局柄ますますのご活躍を期待致します。

●土屋 七郎氏(57期、本会幹事長、渡辺電務社副社長)は、東洋大学理事から同大学常務理事(理事長職代理代行第3順位)に昇格されました。

●宗像 紀夫氏(73期)は東京地検特捜部副部長から新設の特別公判部部長に栄転されました。

■各界での活躍

●鎌田 正二氏(43期、東京シンクサービス代表取締役)は、高齢化社会の先駆的経営として「高齢者の雇用」を特色とされておられます。東京シンクサービスは毎号の会報に広告を、ご協賛戴いております。

この度、雑誌「プレジデント」にそのユニークな経営理念が取上げられておりますので、ご紹介致します。

●遠藤 実氏(64期、国際貿易・経済問題担当大使)は、現在大きな国際問題である「ウルグアイ・ラウンド」をめぐり、所謂GATT大使として東奔西走のご活躍ぶりです。テレビ等でご覧の通りです。



株式
会社

渡 辺 電 務 社

電 気 設 備 設 計 施 工

本 社 東京都江東区三好1丁目1番2号
電話東京(3641)0136番(代表) ㊦135
千葉営業所 千葉県千葉市都町2丁目5番1号
電話千葉(0472)(31)9287番 ㊦280

取締役社長 渡辺豊定(58期)
(旧姓沢村)

母校便り

(安積高校新聞第137号、138号より)

★平成2年度第43回卒業証書授与式

今年度の卒業生は469名。

★平成2年度センター試験

本校の成績は平均点538点(全国平均510点)。

★平成3年度大学入試

合格者数：国公立大へ236名、私立大へ500名、計736名。

★平成3年度入学式

安積107期生502名入学。恒例の水爆攻撃、応援団の猛特訓を受けた。

★高体連結果

剣道部、東北大会で団体・個人とも3位。個人はインターハイへ出場。

★甲子園……残念！



★特集から

受験戦争の激化に伴い「カリキュラムを考える」という特集が組まれた。「時代は、受験のためだけに学問的知識をつめ込まれた機械的人間よりも、本当の人間性、教養を身につけた人間を必要としているようなのだ。……………さて、諸君、どちらをとる？」

★論説から

「日本人と米」と題して、米の市場解放問題を論説。日米貿易摩擦が安積高校新聞にも登場。

雑感

学校長 安原 滋

平成4年は、湾岸戦争の危機をはらんだ前年とは違った緊張感のうちに幕を明けた。東西冷戦のはざまに、突如として割り込んだ中東湾岸の危機は、連日、報道の紙面を賑わし、固唾を呑む思いの毎日であったが、暮に起こったソビエト社会主義共和国連邦解体という破天荒な歴史的事実の前には、結果として色褪せたものになったと言わざるを得ない。激動の昭和と共に生きた我々の世代は、それぞれに、ある種の感慨をこめてこの事態を受け止めたはずである。自らの思想形成の過程でマルクス・レーニン主義の文献に目を通す過去を全く持たないと言う人は少なく、また、ソ連邦が、こんなにも脆く、短時間のうちに崩れ去ることを予見し得た人は、少なかったのではないかと考えている。それだけに、今、教職にある身の責務を重く噛み締めている。

変転極まりない社会に生き、支え、リードしていく仕事を担うであろう安積の若者に、今、教えるべきことを確実に果たしているだろうか。

ただ一度の人生をひたむきに生きることの大切さを、生徒一人一人の前に刻みつけているだろうか。

学力とは、学習によって得られた知識の量をさすのではなく、学ぶ力、学ぶ意欲であることを理解させているだろうか。

今の出会いが、価値ある出会いと映

る澄んだ心になっているだろうか。

……………
修学旅行で立ち寄った竜安寺の境内に、

一年を思えば 花を育てよ
十年を思えば 木を育てよ
百年を思えば 人を育てよ
と書いた立札があった。教育は国家百年の大計と言われるが、近頃、気になることがある。

学校週五日制導入の動きである。

将来のある時期に、学校で週五日、家庭で二日、児童・生徒の教育を担当する体制をとることに必ずしも反対ではない。しかし、労働省が欧米並みの労働時間に移行するよう行政指導を行い、参議院社会労働委員会が学校五日制推進の決議をしていることから明らかのように、この問題は、大人の労働時間短縮に端を発したものである。学校が、児童・生徒の教育の在り方を考える上で、五日制にすることが適切であると言いついたことから始まった話ではない。それだけに、教育の問題としての議論を深め、学校と地域社会それぞれの教育分担を明確にし、また、その態勢が整備された段階で実施に移されるべきである。一度踏み出せば、後戻りが難しい制度であるだけに、殊更慎重な対応が要請される。

社会の変化や時代の趨勢といったムードによって、吟味なしに何でも受容したり、外圧に安易に流されるような体質が教育界にあるとすれば、極めて残念である。

東京桑野会の益々の隆盛と皆様の一層の御健勝を念じております。

住宅用グラスウール断熱・防音材

ハウスロンシリーズ



パナソニック工業株式会社

相談役 菅家信一 (50期生)

東京営業所/東京都中央区日本橋久松町11-6(日本橋TSPビル) ☎03(3665)0301代/FAX03(3665)0309

追悼 矢吹陸郎君

東京桑野会会長 澤田 悌

副会長矢吹陸郎君のご逝去に心から哀悼の意を表します。

長谷川輝君から電話で、矢吹君の病状容易ならずと知らされたのは平成3年9月末であった。10月1日長谷川君と共に浦和市のご自宅にお見舞いにあがった時には、既に意識もそれ程確かではなく言葉を交わせる状態ではなかった。次室に控えているうちに、奥様から少し落ちつかれたからと招かれたので、ベットに寄って顔を近づけたら、眼は明らかにこちらを意識された様子であり、手を握ればすぐ力強く握り返してくれた。或はこれがお別れかと胸迫る思いであったが、1日も長くと心から念じて辞去した次第であった。

その後奥様初めご家族方のお手厚く行き届いたご看護もむなしく、同月10日午後遂に帰らぬ人となられた。安らかなご永眠の由であるが、ご遺族のご胸中察するに余りある思いであった。

同月13日浦和市三室の文珠寺におけるお通夜及び14日の葬儀には、東京桑野会から役員外多数参列して矢吹君のご冥福をお祈りした。

矢吹君は安積第45期の卒業で満州医科大学に学び、戦後内地に引きあげた後は、郷里福島県、厚生省、栃木県庁等で長く公衆衛生行政に尽力され、後浦和市に有隣会南浦和病院を設立して立派な病院に仕上げられた。その間

私が昭和58年4月東京桑野会会長に就任と同時に副会長を引きうけて会のために多大のご尽力をいただいた。特に会報の充実発展には強い関心を有ち数回自ら寄稿もして下さったが、この第14号をお目につけられないことは誠に残念である。合掌

(短資協会会長)

矢吹陸郎さんを偲んで

佐藤静司 (45期)

早起きの矢吹さんはよく病院への出勤前に電話をくれました。散歩してるかとか私の健康の事や、展覧会での私の作品の感想など気を使ってくれました。

一見豪快な様であるが気配りの行き届いた思いやりの深い人柄でした。

安積では3年の時同級でしたが、彼は須賀川からの汽車通で、私は家が郡山駅の近くでしたので帰途はよく一所でした。体はがっしりして居たが背は普通で、大学まで柔道を続けるとは思いませんでした。しかし学業は努力家で成績も良い方でした。朝教室に入ると矢吹さんや古川さんが一生懸命に学習している姿を見て、暢気な私はハッとその日にテストのあるのを思い出したりした記憶があります。その頃私は画家か彫刻家のどちらかになるか、卒業まで待つか迷っている時でした。

後年矢吹さんと深く付き合う様になったのは、同級会で会った時に彫刻に関心を持たれたのか、引っ込みがちの私に話しかけられてきた時からでした。

実業家の人々のなかには、作家の世

界というのは全く別の世界らしく、興味を持てるらしいし、そこから何かを得ようとする飽く無き探究心を持つ方が多い。その辺作家と一つの共通点があるのではないかと思います。矢吹さんは兄弟が多く、皆医者の学校に行ったので、長兄御夫婦の負担を少しでも軽くしたいと考え、満州の医学校に入学したのだと話してくれました。その様に思いやりの深い人でした。だから作家の生活などは、はらはらして見ておられなかったのかも知れません。矢吹さんが病院経営を始めるにあたり、定年迄の医療行政の世界から臨床の世界に入る為に医者の勉強を一からやりなおしたり、病院に従事する人々の育成や患者さんを第一とする医療の根本をしっかりと踏まえた行動は、私が常に彫刻とは何かと自分に問い直し、物欲や名誉欲に流されず「感動を与える彫刻は、作家の人間性から生まれる」という自論と相通じるものがあります。そこが彼を尊敬出来るところだと思います。

最後に彼の偉いのは、癌と云う病気で死の瀬戸際に立って 普通の治療をしておれば1年は生きてる事が出来ると云うのに 自分の身体を実験台にして医療の道を研究しようとしたことです。矢吹さんの人間性には頭が下がる思いがします。

良きパートナーであった最愛の美代子夫人やお嬢様方に手厚い看護を受け、日頃の思い通りに自宅での最後の旅立は矢吹さんは以て冥すべきであると思います。

(彫刻家)

高断熱・高气密住宅向け/吹き込み湿式グラスウール断熱工法

BIB工法

株式会社 ビー・アイ・ビー

取締役社長 菅家信一 (50期生)

本社/東京都中央区日本橋久松町11-6(日本橋TSビル) ☎03(3664)0860/FAX03(3664)7523

いまこそ朝河学を！ 朝河研究会へのお誘い

矢吹 晋 (70期)

『朝河貫一書簡集』は幸い多くの方々のご理解とご協力を得て、1990年暮に出版にこぎつけた。

この『書簡集』の編集にたずさわった人々の間から、『書簡集』刊行を「朝河貫一研究」の出発点としようという声が自然に盛り上がってきた。コピーライター風にいえば、「いまこそ朝河学を！」が旧編集委員会の共通の問題意識になったわけである。

こうして1991年4月27日に第1回研究会が開かれ、金井圓・東大名誉教授（日本近代史）が「書簡集の刊行を終えて 朝河学序説」と題する報告を行った。そこで研究会の運営についての大筋を決定するとともに、研究会代表に峰島旭雄・早大社会学研究所所長（当時）を選び、事務局を早大社会学研究所内におくことにした（〒169-50 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学社会学研究所気付、☎03-3203-4141 内線 71-5253）（『朝河貫一研究会ニュース』第1号）。

第2回研究会は7月6日に開かれ、峰島旭雄氏（早大教授・比較思想）が「朝河貫一のプロフィール—書簡集のなかから」と題して報告し「クリスチャン朝河の真面目」は「オーソドックスなキリスト教神学ではなく、北村透谷を思わせるユニテリアン流の宗教観」とコメントした（『ニュース』第2号）。

第3回研究会は9月28日に行われ、斎藤襄治氏（元ダートマス大学客員教

授・比較文学）が「朝河貫一の英語文体についての一考察」を発表された。朝河の英文文体は、サミュエル・スマイルズの『セルフ・ヘルプ』（中村正直訳）などの影響が認められる、と指摘した（『ニュース』第3号）。

第4回研究会は11月9日に行われ、大畑篤四郎氏（早大教授・外交史）が「朝河貫一のアジア認識」についての報告を行った。日露紛争から、21カ条要求、満州事変を経て、日米開戦前夜に至る朝河のアジア認識の特徴を分析したものである（『ニュース』第4号）。第5回研究会は1992年1月25日、第6回研究会は4月11日に予定されている。

こうして隔月に1度、夏休みなどは除いて、年間5回程度の研究会を開く体制が整ってきた。研究会の終わるたびに『朝河貫一研究会ニュース』がワープロ印刷、ゼロックス・コピー版としてB5判4頁のものが作られている。こうして研究会が軌道に乗ってくると、研究会の成果を発表する機会が欲しい。そこで論文集刊行計画が浮上した。朝河貫一は1873年生まれであるから1973年が生誕百年、1993年は生誕120周年に当たる。この年に目標を定めて、朝河学の最新の成果を発表する日論見である。これは学術論文集を旨とするが、構成はまだ固まっていない。もし桑野会会員諸氏のなかで、研究会への参加、あるいは傍聴、そして論文集への寄稿の意向をお持ちの向きは筆者なり、研究会事務局に問い合わせただければ幸いである。

（横浜市立大学教授・現代中国論）

徹夜で書いた嘆願書

菊地貞三 (55期)

昨年暮、わたしの50年の詩業が1冊の文庫にまとめられることになって、郡山市に生まれた大正14年から現在までの年譜づくりに没頭した。過去を跡づける記録など取っておかない主義だったから、年次など正確を期するのは容易ではなく、ことのほかでこずったが、書いているうちに思いがけない遠い昔のことが絵のように鮮やかに浮かんできて、けっこう楽しい作業でもあった。なかでも昭和13年安積中学校入学から18年卒業まで5年間の中学生生活は、あとからあとから思い出がふくらんできて、しばしば筆を措いて甘美な回想にふけたことだった。

年譜にはしょせん書きこめないそんな中学生生活の思い出のなかから、再び忘却の彼方にしまいこむには惜しい思い出をひとつ。

たしか5年生になりたての晩春のころ。4年生に札つきのワルがいて、低学年生がいじめに泣かされたり、それどころかその彼をリーダーとする一味は、気弱なわれわれの級友をさえおびやかしていた。つい日にあまり、5年生の責任において“説教”しなければということになり、彼を放課後の教室に呼び出した。常にポケットに竹刀のツバをしをばせているというしたたかな彼との押し問答のあげく、カッとなったS君が彼を殴った。手を出したのはS君ばかりではない。生意気だ、やっちまえと怒鳴りながら数人が余勢をかっ

公認会計士 星 武典 事務所

ムアーズ・ローランド国際会計事務所所属

〒101東京都千代田区神田錦町2丁目5番地(KSビル3F)

TEL (03) 3291-8361 FAX (03) 3291-8465

星 武典(58期)

て鉄拳を奮ったのは、当時の中学生気質としては当然だったろう。ただし昨今の中高校生らのランチのような、程度もほとんど知らぬ無法なものではなく、怪我ひとつ負わせるものでなかったのは無論である。

だが相手が悪かった。その男の父親は市の有力者で、彼はその権勢をカサに着ての口ごろの横暴だった。当然父親は学校に談じこんできた。医師に勝手に書かせたのだろう怪我の診断書を添え、S君を名ざしで処分しなければ告訴するというのである。緊急職員会議が続けられた。S君はわが学年を代表する優等生であり、それは職員室も十分に承知だったが、何分にも相手が悪い。学年主任のS先生が苦境に立たされている、という情報も伝わってくる。5年生対4年生の対立意識も騒然と高まった。わたしたちも、放っておけばストライキにも発展しかねない状況に追いこまれた。わたしたち有志は夜遅くまで対策を練った。わたしは徹夜で長文の嘆願書を巻紙に書き、早朝自転車で登校、校門前で同級生に呼びかけては署名を集め、S先生に提出した。S君はわれわれの代表であり、今回の制裁は5年生全員の意志であって連帯責任だ、という、有志一同退学覚悟でS君の処分阻止を願ったものだった。

S先生も退職願をふところに、その嘆願書を職員会議で朗読されたという。一結局学校側の良識は、時間かせぎで処分保留のままやむやみに事態を収めてしまったようだ。

結末はともかく、目を充血させて、嘆願書を持って学校へ自転車を走らせ

たあの朝のああい緊張は、半世紀を距てたいま思い返してもなつかしい。精いっぱいムキになって生きていたあのころこそ、まさに青春そのものだったといえよう。

(詩人)

「ポスト会社人生」の 生きかた学 鎌田正二 (43期)

—『プレジデント』(91年3月号)より—

水俣問題が会社設立の契機に

熊本の水俣病公害の悲劇は、被害者である住民が気の毒なのはむろんだが、元凶とされたチッソの多くの社員たちも人知れずの労苦に泣いたものだ。

鎌田正二さん(78歳)は東大経済学部卒、戦前の日窒コンツェルンの日本窒素に入社。戦争中は同社の興南(フンナム)工場(北朝鮮)に赴任。戦後は水俣や五井の工場にまわされ、東京本社の総務部長を最後に昭和43年、55歳で定年になるはずだった。

だが、水俣病公害騒動が頂点に達したのは、ちょうどその総務部長当時で、しかも長期労働争議が併発、チッソの経営は風前のともしびとなった。銀行が管理するまでに悪化、人員整理と工場縮小が強行された。

それまで定年退職者は、子会社が受け皿になってくれて“第二の人生”が約束されていたのに、それら子会社さえも次々に売却されたり閉鎖されてゆく。ブルーカラーの人たちの大半は日窒系の積水化学に拾われたが、ホワイトカラーとなると路頭に迷うしかない。どの顔も消沈している。

鎌田さんは不運な人である。東大の先輩の宮崎輝は、同じ日窒でも旭ベンベルグ絹糸に配属になったおかげで、今日では旭化成会長として経済界の頂上を極めている。また田鍋健は興南工場の企画課長だったが、いまでは積水ハウス社長に栄達している。強運のかれらを横目で見ながら鎌田さんは、自分のやるべきことを決意した。人間の義務として自分に課した。

敗戦直後、家族をふくむ3万5千人の日窒興南工場社員を、大混乱の北朝鮮から引揚げさせるリーダーとなって、彼はたいへん辛苦した。チッソが経営危機にあった当時は、こんどは定年退職者たちを救ってやらねば、という義侠心にかられたのだ。

そこで定年を待たずして彼は退職、千葉のチッソ五井工場が出すアタクチックポリプロなどの産業廃棄物を処理する「千葉ファインケミカル」を、北朝鮮時代からの同僚三人と昭和42年秋に設立した。幸い、創業資金の1500万円は理解を示すチッソが出資してくれた。

初年度は54万4千円の赤字だったが、2年目から黒字に転じ、チッソのホワイトカラーの退職者をつぎつぎと入社させ、アルバイトもふくめてその数は74人になった。

しかし、鎌田さんは満足できない。それというのも出資者であるチッソが、何かにつけてオーナー風を吹かず、それがいまいましい。もっと自由に働ける独自の職場をつくりたいと構想、ポリプロ・スクラップを販売する「五井プラスチック」「東京シンクサービス」「神田翻訳サービス」、住宅建設と不動

株式会社 東京シンクサービス

- 業務 特許公報の抄録・翻訳、工業技術の指導・調査
- 特色 高齢者の雇傭
(全従業員91%が60才以上、70才以上は54%)

〒101東京都千代田区内神田2-13共同ビル
電話 (03)3254-5805
代表取締役 鎌田 正二(43期)

産販売の「チッソハウス興業」などを設立していった現在、社員数 359 名、このうちチッソ出身者が3分の1いる。

肩書なし、序列は入社順

そして、これら「千葉ファイングループ」の中核を「東京シンクサービス」にした。同社は資本金 600 万円。主な仕事は工業技術の指導調査、特許公報の抄録と翻訳で、東京はJR神田駅が近いビルにある。

三菱重工、日産化学など一流企業の、かつての工場長とか生産部長とか技術部長とかの役職者たち 平均年齢 71 歳の 48 名の老練たちが、静かに品よく執務している。向い側が神田外語学院であるため、フレッシュな女のコたちが出入りしているのと対照的だ。

ここでは会長の鎌田さん、社長の男沢恭郎氏 (69 歳)、常務の米山誠人氏 (75 歳) の 3 人を除いてはいっさい肩書はなし。

「チッソ時代に先輩だったり上司だったりした人も、はいつてくるようになりましてね。上下がつけにくくて横一線ということになりました。名前をよぶのも××さん、○○君にしています。でも名簿上は先着順です。入社した順序で、さきに入ったものが序列が上ということにしているんです。これならわかり易いでしょう。キップを買うときに列をなして並ぶ、あれと同じですよ」

鎌田会長がいう脇から男沢社長が、「ただし、娘さんの結婚式などでは、父親として列席者たちに配る名刺は、取締役の肩書がほしいだろうと察してやって『適当に印刷していいよ』と申



し渡してあります。結婚式当日だけ使用しろというわけにはいきませんし、一日重役というのも変なので、その名刺は一年くらいは配っていいことも黙認しているんです。対外的に社員の体裁をととのえてやれるのも、定年集団ならではの思いやりですよ」

と誇らしげに追加する。

サラリーも平等、年金の受け取りに支障がないように 9 万 5 千円におさえている。このほかにボーナスが年二回 (60 万円) あるので給与、年金にプラスして月収は 30 万円余ということになっている。

糟糠の妻たちはウハウハしている。30 万円の月収もさることながら、「家庭内での話題も多くなり、イキイキしたものになりました。定年退職して毎日が日曜日だったころは、家でゴロゴロして、黙りこんではテレビにばかりかじりついていましたもの」

と口を揃えていう。夫が「粗大ゴミ」でないのが何よりもうれしいのだ。

平成 3 年 3 月末の年間売上高はグループ全体で 14 億 9 千 100 万円、当期利益が 3 千 880 万円だ。うち「東京シンクサービス」がトップで売上高 4 億 4 千 900 万円、当期利益は 1500 万円である。勤務時間は午前 8 時 45 分ごろから、午後 4 時 15 分ごろまで。休みは暦通りである。

(株東京シンクサービス代表取締役)

防災の心

有我政彦 (68期)

はじめに

「一筆啓上火の用心、お仙泣かすな馬肥やせ」。400 年程前、豊臣秀吉・徳川家康が戦っていた時代の武将、本多作左衛門重次が、戦場から妻子にあてた手紙ですが、戦乱の中にありながら、吾が娘、愛馬に思いを馳せ、なお「防火」に気くばりをしたその心は、どんな心境だったのでしょうか。

気くばりという言葉が流行して久しくなりますが、今日のように忙しい都市生活をするうえでは、とりわけ防火・防災は「他人様にご迷惑をかけない」という事が絶対要件のひとつでありましょう。一筆啓上に示された防火・防災の警告は、むしろ今日こそ大切な「防災の心」として再確認しておきたいものです。

安全と安心

我が安高出身の消防官は東京消防庁でも大活躍しています。

防災部長・藤田真一氏 (67 期) 品川署・鈴木裕氏 (68 期) 石神井署・柳沼宣昭氏 (69 期) 芝署・藤田真美氏 (78 期) 危険物課・椎野靖啓氏 (78 期) 荻窪署・吉田史郎氏 (85 期) など小生の知る範囲でも 10 数名いますが、それぞれ首都防災に誇りをもって、都民の安全のために日夜努力をしています。

小生の勤める日本橋消防署は、厳し

営業品目

- 煙突・公害防止関連機器
- 貯槽・塔槽類
- 鋼構造物

上記品の

- 設計・施工監理
- 点検・庁舎・診断
- 製作・建設



株式会社 富士ハイエンジニアーズ

一級建築事務所

〒105 東京都港区新橋 4 丁目 21 番 7 号

つるや加藤ビル

TEL (03)3434-1611 (代表)

代表取締役 遠藤 修 (67期)

い経済事情の真只中にありますが、お蔭様で災害は極めて少なく、特に火災による犠牲者ゼロの日が3年以上、火災で焼損する面積は算定でもゼロの日が2年以上に及び、今なお継続中です。

このことは決して偶然の結果ではありません。街の人、事業所で働く多くの人達それぞれが、随時随所で“安全”を考え行動しているからなのです。

勿論、私ども消防行政も、これに大きな力を注いでいることも要素でしょう。

ひとつの例として、街で会う人との会話は、まず「心だネ」「まだ続いていますネ」との短い言葉が真先にとび出すことから伺い知れます。

小さな願いに誇りをこめて

今日、機械や技術が進んでいく中でややもすると“人の存在”が見失われがちです。その陰に隠れてしまう人間であってはたまりません。ましてや人間に心がなくなってしまったら……。一見豊かで平和な首都に見えますが、防災的にはまだまだ心配です。

この道30有余年、東京を第二の故郷とし、愛をこめ、職業倫理とともに、この街がいつも安全で、安心して住めるよう、必死に願っている消防官のひとりであります。

(日本橋消防署署長)



水口荘介先生 画

新人類を引きつける 福島県に

玄葉光一郎 (96期)

学生時代や松下政経塾時代、東京桑野会の会報づくりをお手伝いをさせて頂いたことや、その作業中に会報づくりに携わる先輩方にお世話になったこと、その時のふれあいなどを思い出しながらペンをとっております。

昨年4月より福島県議会議員にさせて頂き、同じ安積の先輩である佐藤栄佐久知事を支える立場で県政の進展に微力を捧げております。

さて、最近刊行された「国民生活白書」の中で、「住み良さ」調査の都道府県ランクが発表されました。それによると福島県は13位でありました。持ちうる指標等調査方法を批判するのは簡単ですが、「21世紀の新しい生活圏～美しいふくしま～の創造」という将来イメージを掲げるわが県にあっては、「住み良さ」というのは大切にしたい視点だと思います。

「東京の3つの間抜け」という表現があります(『オイコット・ライフ』博報堂生活研究所)。東京の生活には、空間・時間・家族間関係が抜けているというのです。つまり、地方に比べて狭い住宅、長い通勤時間、通勤時間が長いから少ない家族との対話、という意味なのです。

私は、そもそも国土の使い方は大都市と地方の良さをバランスさせることが大切で、人間のライフスタイルには、大都市型と地方型と2つあっていいと思います。東京で希望する職業を得て、

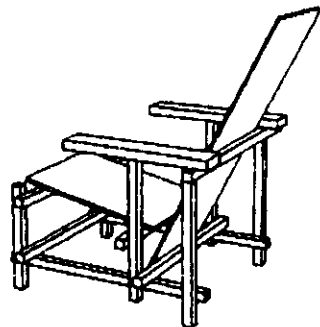
なおかつ庭付き住宅を欲するというのはそもそも無理な話だと考えるのです。広大なアメリカでも分担の思想がとられているし、イギリスの貴族だって、地方では庭で狩猟するくらいの大邸宅に住みながらロンドンではアパート住まいが一般的だと聞きます。

問題は価値観が多様化するなかで、地方が、中・高齢層はもちろんですが、特に、新人類のうちの生活・くらし重視の若者を引きつけることができるかどうか、新人類に魅力的なライフスタイルをどのように創造していくかであると思います。

福島県は新国土軸上に位置し、首都圏に近接しながら、併せて広大な自然(海あり湖あり山あり)を持つ。それに東北・常磐及び磐越(平成7年予定)自動車道の3本の高速道路が走り、2,500メートルの滑走路(6次空整組み入れ)の福島空港があります。従って新人類をひきつける環境を整備するための最低限の条件は整いつつあります。またさらに地方型の先端的なライフスタイルを確立し、それをダイナミックに展開するために、私は、福島空港の首都圏第3空港化が最も求められてくると思います。これは様々な観点から非現実的な話ではなく、これが実現すれば、情報インフラの整備やR&D拠点などさまざまなものを誘導することになると思います。

いずれにしても、私も県土の発展のため誠心誠意努力してまいりますので、東京桑野会の皆様には、郷里の発展に今後ともご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

(福島県議会議員)



- 婚礼家具
- リビングセット
- リビングボード
- ダイニングセット
- ハウジング特注家具

快適な暮らしに役立つ

応接・収納セット専門メーカー



マルクワ家具株式会社

株式会社 マルクワ

本社 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360 0480(32)1131
 支店 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360 0480(32)1131
 支店 埼玉県北葛飾郡杉戸町2360 0480(32)1131
 支店 埼玉県北葛飾郡清地1-5-18 FAX 32-1139

常務取締役

橋本大三郎 (66期)

郷土 フラッシュ情報

— 洋から海へ —

柳沼 晃 (61期)

今年の正月は1日、2日を郡山の実家(金屋)で過ごした。福島民報、福島テレビなどをじっくり見たり聞いたりできた。職業柄、経済・産業開発のニュースや読みものに目がゆくことになるのだが、高速道路、空港、工業団地そしてリゾートなどの県情報に数多く接して、わが郷土も大きく発展しつつあるなと感じた。

郡山に住んでいれば、これらは日常のことなので、とくにニュースとはいえないだろう。しかし、来年「還暦」を迎える私達、1933年(昭和8年)生まれの安中、安高同級生をはじめ、その前後の年代の方々にはサラリーマン定年の節目にきているので“ふるさとニュース”には関心がことのほか高いのではなかろうか。(郡山駅から乗ったタクシー運転手の話によれば「いまここではマンション建設ブームです。それがどんどん売れているのですが半分ぐらいは都会にでたこの土地の人達のUターンを目ざした現象」とのこと。老後は郡山で暮らそうとする傾向が強まっているのだろうか?)

そこで、東京桑野会報の担当者からの執筆依頼に応じて、ちょっぴりだがふるさとレポートを試みてみた。



道路は生活、産業の動脈といわれているが、日本道路公団が建設中の磐越自動車道の工事が、いま急ピッチに進んでいる。いわき市と新潟市を結ぶ全

長212kmのこの高速道は、いわきの常磐自動車道から西に進み、郡山ジャンクションで東北自動車道と交差し、会津若松市を経て新潟市で北陸自動車道と直結する初の本格的な東北横断道路である。

— 昨年の秋に郡山—磐梯熱海間が開通(総工費224億円)したのを皮切りに、昨年夏にはこれが猪苗代まで延長された。会津坂下は今年、新潟県境に近い津川までと郡山—いわき間は平成7年に完成する予定である。平成7年は福島国体が開かれることになっており、県下では磐越自動車道ばかりでなく、さまざまな開発が行われる見通しである。

新潟—いわき間が開通すると、従来5時間半もかかっていた運転時間が、半分以下の2時間40分に短縮されるというのだから、県民がはしゃぐのも当然だ。もちろん近県からの関心も高まっているそうである。

安高同窓の佐藤栄佐久氏が知事をつとめる県庁では「洋(うみ)から海へ」のキャッチフレーズを掲げ若者やマイカーばかりでなく県内外の人々へのPRに余念がない。朝に太平洋、夕に日本海の活魚を食べる時間が間もなく来る—これはイメージしただけでも楽しい。首都圏↔いわき↔新潟↔首都圏のトライアングルの形成によって経済やレジャー、リゾートなど何か新しいプラスアルファの創出も見込めよう。

この道路事業とあいまって県下では郡山・須賀川の頭脳立地—テクノポリス構想、郡山第2西部工業団地での県工業技術センター建設、会津フレッシュ

リゾート構想、中通りと浜通りにまたがる、あぶくま新高原・空港都市構想などの計画が目白押し。不足しているのは経験豊かな「人材」とか。

(日本工業新聞社取締役)

「村おこし」について

荒井広幸 (90期)

東京桑野会の先輩皆様には、いつもいつもお心のこもったご激励を賜り“安積”の有難さと喜びをしみじみと思っております。

ご期待にお報いすべくコツコツと前進して参ります。

今回は、俗に言う「村おこし」について提言させていただきます。

先輩、佐藤栄佐久県知事のもと我が福島県は、村おこし、マチづくりにあっては全国有数の、実に个性的で先進の地となっております、誇るべきことです。

しかし、これらの大半は行政主導型と地域リーダー主導型というべき内容がほとんどです。そこで、県会議員を務めさせていただいた議会人の視点で考えますと、議会主導型の村おこしのスタイルがあってしかるべきと常々考えておりました。

そこで着眼しましたのが、日本議会上史、福島県あるいは三春町、田村郡がさんぜん光り輝やく事蹟は河野広中の存在であり、自由民権運動発祥の地であるという県民性であります。これを生かせば、福島の土壤に根ざした、しかも日本に誇るそして世界にも紹介できるすぐれたものができることはうたがいようありません。

あなたの生活まるごと運びます

●お問合せ・お申込は

TEL (0423) 65-8100

◎一般引越

■既売ファミリーサークル引越 特典提携引越

■大学生協指定引越

府中運送株式会社 引越事業部 電信事業部

府中市白糸台1-23-10 (新甲州街道白糸台1丁目交叉点角)

遠藤征志郎 (72期)

具体的には県や三春町、あるいは田村、石川郡の議会が主体となって、世界や国内で自由と民権の思想を守り育て、その国や地方においてすぐれた活動を続けている人や団体を顕彰したり、発掘、援助する「河野広中賞」を創設すべきなのです。

これは、福島県の議会にしかできないことなのです。

これらを初夢に終らせないよう、私は微力ですが今日もまた活動が続けて参ります。

(前福島県議会議員)

癌治療における ホリスティック医療の必要性

本田 宏 (86期)

私は昭和48年に卒業、弘前大学医学部に入学、昭和54年に母校の外科に入局しましたが2年後に移植学を学ぶため東京女子医科大学腎臓病総合医療センターに移動しました。女子医大に移ってからは、一般外科はもとより臨床では腎臓移植や進行癌の治療、実験では肝臓移植に携わってきました。平成元年7月から、埼玉県栗橋町(JR東北線の埼玉県の北端)に新設された済生会栗橋病院の外科部長として任せられ現在に至っています。まだまだ外科医としては若輩ですが、体力と気力は充実している年代ですので、勉強しながら患者さん中心の医療を展開すべく張り切ってやっております。

この2年半、栗橋病院外科の患者さんを見ておきますと、いまさらながら癌の多さに驚き、その治療の困難さを実感せずにはられません。種々の学

会や研究会で最先端といわれる治療法を学び実践してみますが、特に進行癌においては効果も少なく、患者さんやその家族の期待に答えられず、最後にはなすすべもなく矢折れ力つきの状態です。

皆さんご存じのように現在では国民の4人に1人が癌で死亡しており、時にマスコミで華々しく取り上げられる新しい治療法や抗癌剤も時日の経過とともにその効果が色あせ、結局は癌の発症率や死亡率が改善しないばかりか、増加しているのが現状です。癌の原因としては国内外の多くの疫学者が以前よりタバコや食物がその6-7割を占めると指摘しています。私の病院の患者さんにおいても、ほとんどの癌患者さんの生活歴にこの傾向は明白で、胃ガンと食塩の取りすぎ、大腸癌と肉食・便秘、食道癌と飲酒・喫煙、肺癌とタバコなど、疫学データを裏打ちする患者さんばかりです。特にタバコと食塩、肉、脂肪の過量摂取、野菜の摂取不足は癌発症の増加に多大な影響をもってきたことは明らかです。私は手術する前後の説明で患者さんばかりでなく、その家族にも必ずこれらを教育するように努めていますが、現在の日本人の健康に関する無関心さや、自分だけは病気にならないのではないかという安易な考え、いざとなったら病院に駆け込めばどうかしてくれるという他力本願的な思考に唾然とする事が多いのです。

私は最前線の臨床病院で最新医学といわれ、癌細胞を殺すと同時に患者自身の体を痛めつける治療法の限界を痛感し、癌は治らないと諦めてよいのか

と自問自答しています。また結核を食事療法で完治した歴史を振り返り、体力増強や体質改善、時には精神安定などが病気を治癒に導く現実を直視し、多くの代替療法の有効性を冷静に確認し、良いものは積極的に治療法として取り入れていかなければ癌治療に大きな進歩はないと感じています。今後は近代医学がもたらしてくれた通常療法に加えて、食事療法や精神療法、瞑想療法など種々の代替療法も取り入れた総合的な医療(ホリスティック医療)を目指し、単に癌のある細胞や臓器だけを診るのではなく、患者さんを人間として認識し個人のライフスタイルや環境にあった治療が提供できるように鋭意努力していきたいと思っております。

最後にこの紙面をお借りして、この方面に関心のある同窓の方がいらっしゃいましたらぜひご指導、ご鞭撻、ご連絡をくださるようお願い申し上げます。

(東京女子医科大学第3外科講師、現在埼玉県済生会栗橋病院外科部長として出張中)



水口荘介先生 画

弾性無限への挑戦

工業用ゴム製品の製造

株式会社 朝日ラバー

本社 埼玉県川口市赤井2丁目13番11号 ☎334
埼玉工場 電話0482(85)2251(代表)
FAX 0482(85)2254

福島工場 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地
電話0248(53)3491(代表) ☎969-01
FAX 0248(53)3493

代表取締役 伊藤 巖 (65期)
角田康夫 (71期)*
面川祐一 (100期)
根本雅司 (100期)*
佐藤誠幸 (101期)*

母校の風土に伝わる 「ひょっとこ踊り」

木村繁治 (72期)

いま郡山市西田にある「デコ屋敷」に継承されている「七福神ひょっとこ踊り」のPRに自分でも「馬鹿」だと思えるくらい熱中している。

旧三春藩の地に400年も続く農神事の一つ。ひょっとこ踊りなどと聞いてもハテ?と思われた諸先輩も多いはず。

農業をなりわいとしながら、農閑期に先祖の残してくれた木型に和紙を貼りつけて乾かし、色付けをして、天狗、だるま、歌舞伎の所作を題材にした人形などを作っている七軒の農家を「デコ屋敷」という。江戸時代に端を発しているもので、その表情が生き生きとしているところなど、当時京都でも有名だったらしい。農家は戦国武士の末裔でもあるらしい。

この踊りは祝いに舞われるものだが、アイロニカルで卑猥で、また人間の本质をもついていて、とにかく腹の中から笑えて涙が出てしまう。九州、関東、東北、佐渡、紀州など全国的に点在している。

この踊りが昨年のゴールデンウィークにアメリカ大統領の出身地であるヒューストン市の「ジャパンフェスティバル」に招かれた。他県からは、津軽三味線、各地の名物の太鼓、江戸火消しなど硬軟合わせ30団体が参加。

その中で人気ナンバーワンとなったのが「ひょっとこ踊り」である。その要因は、ひょっとこの7人が皆同じ様な演技ではなく、各人各様に個性を活

かしながら踊ったからだ。しかも演技中突然舞台から降りたかと思えば観客の中に飛び込み、はては誰彼となく舞台に引き上げて踊らせてしまうことにもあった。新聞はトップ一面で扱い、テレビも連日の取材となるほどの人気だった。

日本の総団長ともいべき村山元英千葉大教授は、「一番山深い所から来ていながら、一番国際親善がうまい」と7人に直接言った。デコ屋敷の7人は、その言葉を聞いて大いに勇気づけられた。何しろ彼等は郡山の期待と不安さえも負っていたからである。このフェスティバルでは初回からギックリ腰になる者さえ出る程の熱演だった。

村山教授は、成田空港問題のトラブル解決のための、連絡協議会の会長をつとめている。昨年11月に初めて反対派農民の熱田派が出席したあのシンポの会長である。

ヒューストンのジャパンフェスティバルも、当時開催されていた「日米経済構造協議」から生まれた。「経済摩擦は文化摩擦、それにはまずお互いの文化の理解が必要」という日本の総領事館から村山教授が依頼された事に始まる。

その少し以前から、安高69期の山口勇福島県会議員が、事ある毎に「ひょっとこ踊りを大銀座祭で踊らせたい、郡山を知って貰うためだ」と宣伝に孤軍奮闘していた。その両者が「銀座文化村・吟」というクラブでドッキングしたのである。時は縁を作ったのだ。

ヒューストン行きについては、外務省の古川清先輩のルーマニアからの詳細な指示と根廻しがあったことやもう

一方郡山市では、やはり先輩であるFCTの今泉正顕社長のマスコミと市長への働きかけがあった。

かくして7人のひょっとこが親善の表舞台に立ったのである。

テキサスの大学で踊りが演じられた時、40代の女性が駆け寄って来て「17年アメリカに居ましたが、日本をこんなに誇らしく思った事はありません」と泣いて絶句してしまう場面もあった。

その時のひょっとこ七人衆の面の下の顔を想像して頂きたい。

安高時代には気付かなかったが、母校のよって立つ風土には、そうした伝統もあった事が、今にして判った。

(タウン誌「銀座15番街」編集長)

自由な校風と 太田辰雄先生との出会い

渡部和生 (88期)

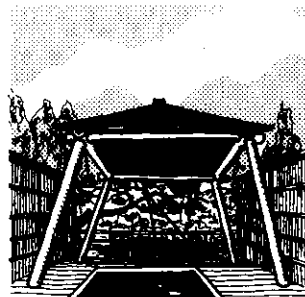
上京し、建築設計事務所を設立して、早5年が過ぎようとしている。まだ東京桑野会に名を連ねて間もない。

安高時代に培われた人生観は、現在のものの考え方、職業観にも大きな影響を及ぼしていると思われる。

昭和47年に安校に入学した頃は毎日、偉そうな応援団に怒鳴られて校歌や応援歌の練習をさせられた。威張った応援団にウンザリしながら、それでも応援歌を覚える事ができ、今でも口ずさむ事ができるのも応援団の御陰だったと感謝している。

在学中は、運動会で巨大な級旗を作った事や何年かぶりに復活した仮装行列に情熱を燃やし安積女子高を目ざした

ふるさとへの
ご旅行ご出張に
ぜひご利用ください。



好評の木造り露天風呂をお楽しみください

■政府登録国際観光旅館■日本観光旅館連盟会員

磐梯熱海温泉



紅葉館

〒969-21 福島県郡山市熱海町熱海4-39 (磐梯熱海駅前) ☎0249-84-2130 村田英男 (75期)

のも、なつかしい思い出である。

安高の先生方も、学生を型にはめようとせず、個性的な先生が多かった。地理を教えられた菅野先生は、特に印象深く、教科書に捕われない授業や創意に基づくレポート作製などの学習法は、大学進学後も大いに役立った。

その後東北大学の建築学科に進み安高時代の自由な校風は、その後の人生観を築き、建築の設計を通じて更なる「自由」を求めたいと思った。

大学卒業後は、建築学科の教授の紹介で、郡山の太田総合病院の建築計画に携わる事になった。そこで安高の大先輩であり、今は亡くなられた、太田辰雄先生にお目に掛かった。既にお身体は不自由であったが、時折、眼光鋭く的確な質問をされ、ドギマギした記憶がある。数少ない言葉の中に大先輩の生き様を垣間見た様な気がした。

現在は、東京の飯田橋に建築設計事務所を持ちながら、郡山の太田総合病院の建築現場の監理に週1日程度、郡山に通っている。郡山に通う度東京と郡山の近さに新鮮な驚きを感じつつ、故郷の仕事に関与できるのは、とても楽しくもあり、名誉な事だと思っている。建物が竣工したら、太田辰雄先生の御霊前に報告し、郡山の両親にも見せたいと思っている。

今思うと、当時フォークソングが流行し、中学生の頃の丸坊主頭から長髪にできるのがとても喜しかった。その時は安高のバンカラなイメージと長髪がとても合っている様に思え、肩まで伸ばせば女子高校生にモテる気がしていた。安高の先輩でもある父親からは、「その髪なんとかならないか」

などと、言われていた。

こんな若かりし頃の自由な安高生の気分をなくさず、また太田辰雄先生の言葉を忘れずに、これからの建築設計を続けて生きたいと思う。

(※建築計画代表取締役)

『編集手帳』抄より

門馬 晋 (60期)

●チャウシェスク王朝、崩壊

「あの方は、われわれから盗んでいる」。八年前、ルーマニアの首都ブカレストで若い労働者がそうささやいたのを、特派員が聞いている。

「あの方」は、ルーマニア語で最も丁寧な言い方だ。無論、チャウシェスク大統領のことを指している。〈空の籠を掲げた男が、首をひねった。自分は買物に行く途中なのか、帰るところなのか〉。当時、はやった小話という。

肉をはじめ慢性的な、“もの不足”は、今も続いている。一般住宅で暖房、温水器を使えるのは一日に四時間半。ガソリンは車一台に90ℓ(月間)。家庭の電球は40ワットのを一つと制限されている。

対外債務を返済するために食料まで削って輸出に回し、輸入を極端に抑え込んだ結果だ。当然、国民の間に不満が高まっていた。チャウシェスク王朝は、それを“恐怖政治”で封じてきた。

エレナ夫人を第一副首相に据え、親類縁者と合わせて一族約40人を党と官僚機構の要職に就けていたというのだから、王朝だろう。豪華な毛皮をまとった「労働者の女王」は、マルコス

夫人に似てもいる。

二十二日、冷戦の象徴とされてきた東ベルリン・ブランデンブルグ門の開通式があった。同じ日、東欧の王朝が崩壊した。自由を求める国民の心まで盗めると錯誤した独裁体制が、崩れ落ちた。(平成 1・12・24)

●資源大国でありながら

「かつては、かのマンモスでさえ絶滅したものだが、われわれタルカーチ族ときたら、いつ、いなくなる時がくるのかしらん」。タルカーチとは、ロシア語で「押す人」の意だ。

もちろん、満員電車に乗客を詰め込む日本の“しり押し部隊”とは違う。十分な原材料・機器を配分して欲しい、と企業から省庁やメーカーに派遣される人間のことだ(嵯峨冽『ソ連の試練』サイマル出版会)。

「(資材を請求すると) 答えはきまって『ないわよ』『待ってたってダメよ』。ソ連紙が載せた「タルカーチ君の述懐」(一部)という。あの手この手の、押しに押ししての、“陳情”に彼らはかけ回る。

と言っても、原材料不足は計画を達成できぬ時の言い訳に使われることが少なくないし、要素が削られるだろうと水増し申請をする傾向もある。一方で「正直で弱い企業がシワ寄せを受ける」。

資源大国でありながら、鋼材やセメント不足が慢性化しているのは、コスト軽視で資材浪費の経済体制に主因がある。利幅の薄い品物の生産を企業はしたがらぬから、洗濯ばさみが市場から消える。

ソ連が、ゴルバチョフ議長を初代大

索道施設の総合設計施工管理

豊富な経験、最新の技術、万全のアフターサービス



東京索道株式会社

本社・工場/横浜市金沢区鳥浜町12-9

☎045(776)6550(総務部)

札幌営業所011-232-5382/仙台営業所022-267-0544
新潟営業所025-241-7147

- ゴンドラ
- スキーリフト
- ロープウェイ
- ケーブルクレーン

代表取締役社長 横尾 稔(第66期)

統領に選出の見通しと伝えられた。強大な権限で保守派の壁を崩し経済改革をどう推し進めるか。立て直し政策は〈第二幕〉に入る。(2・2・26)
(多摩大学教授)

うちの美術館
サロン「フルール」

谷本法朗 (63期)

どんな生き方をしたら、文化的といふのでしょうか。だれもやろうとしないことに情熱的に取り組み、しかも長く続けることだ、と私は思うのです。その対象が、私にとって先駆的な巨匠・モンティセリでした。

税理士の私が、油絵に夢中になったのは昭和56年のことです。そのころ、6階建てのこのビルも完成し、仕事の面でも少し余裕が出てきたので、近くのカルチャー・スクールに通い始めたのです。熱中型の私は、絵の素材を求めて世界中を飛び回り、夜昼なしに描きまくり、妻にペインティング・ウィンドーと嘆かれたほどでした。

昭和59年のことです。デパート主催の美術展で一枚の不思議な絵と出会いました。会場は薄塗りのつるつるした画肌の絵でうめられていましたが、一点だけゴツゴツした厚塗りの絵があるんです。作者の年代を見ると、印象派よりも前の世代の画家です。それがモンティセリだったのです。

調べたいと思っても、日本語の文献が一冊もありません。印象派、後期印象派中心の日本の美術界では、まったく無視された無名の画家だったのです。無性に腹が立ってきました。それな

ら、私が研究者になろうと思い、海外の文献を読むために、まずフランス語の勉強から始めました。基礎からスタートし、アテネ・フランセの上級を卒業しました。

昭和61年、妻子とモンティセリの故郷のマルセイユを訪ね、モンティセリの陳列部屋のあるリヨンの美術館も訪問しました。作品の収集も始め、海外に友人を多くもつようになりました。最初の一点は1000万円弱だったと記憶しています。いまでは80点にふえました。

モンティセリは孤独な画家です。サロンに出品せず、酒と歌と女を愛し、生涯独身で通しました。しかし、絵画史上では、ゴッホ、セザンヌに強い影響を与え、フォーブの先駆的役割を果たしている、きわめて重要な人物です。

とりわけ、ゴッホの傾倒ぶりには驚かされます。弟テオへの手紙の中に、「思わず知らず、モンティセリのように、厚塗りにならざるを得ない。僕は実際、モンティセリの仕事を続けているんだ」という箇所さえあるんです。

昭和63年末、この巨匠の評価を日本で広めるため、「モンティセリ友の会」を結成しました。私のビルのテナントを追い出し、4階を展示室にしました。会員がモンティセリを楽しめるような催しを定期的に行っています。経費の関係で、一般公開はまだ無理です。次は、わかりやすく低価格の日本語の解説書を出すつもりです。それから著名な美術館での巡回展覧会ということになりましょう。(税理士)

(新潮選書「うちの美術館」より)

自費出版された「モンティセリ」➡

瓢箪から駒

土屋七郎 (57期)

昨年12月に、それまで評議員3期・理事2期(それぞれ任期3年)を勤める母校の学校法人東洋大学の常務理事に選任された。

当法人は自治大臣・国家公安委員長を勤める元文部大臣の塩正十郎氏が2期目の理事長として教授側より1名、学識経験者より1名そして卒業生より1名の常務理事が選任されて計4名の常務理事によって学校経営が運営されることになっている。

その交友代表として13万人余りの中から選ばれた訳で、まさに瓢箪から駒である。自分でも全く信じられないことである。

安積中学時代は暴れん坊で手のつけられなかった自分が、こともあろうに大学の経営者になろうとは思ってもみな



電気工事業

株式会社

郡山電機製作所

本社工場

〒963 福島県郡山市富久町久保田字本木五四番地

☎郡山 0249(32)2686(代表)

FAX郡山 0429(32)7743

山形営業所

〒999-31 山形県上市市永野字川原2844-3

☎上山 0236(79)2701

代表取締役

成田 幸一 (52期)

かったことである。安中卒業後、正確には4年終了で、戦時色の濃い状況のもとで東洋大学に入学し、さしたる勉強もせず卒業し今日に至っている。

卒業以来40年近く建設関連の仕事と取り組んで来た訳で、いたずらに馬齢を重ね日下65歳となったので、今までの仕事に別れを告げて大学経営に参加した訳である。

大学での生活は想像以上に忙しく、面食らっている毎日である。今までには思ってもみなかった教学上の諸問題そして付属高校の現場の先生と討論等々難問が山積みしている。

私の直接の担当は管財関係と財政関係が主たる役目であるが、総務関係・人事関係も一応担当することになっている。もちろんオールマイティーではないので少々多すぎる様な気がする。しかし自分が学んだ学校に少しでも、恩返しが出来ると頑張っている。

白山(文京区の大学所在地)再開発の大事業そして朝霞(教養科程)・川越(工学部)のキャンパスの再構築整備、更には群馬県板倉町の新学部の開発等、難事業が目白押しである。これらの難しい事業を完成してこそ、東洋大学の輝ける未来が出現する訳である。

私の取り柄は何もないが、同じ釜の飯を食った同窓生の皆さんの世話をするのが生き甲斐である。従って皆さんの御迷惑も省みず東京桑野会の幹事として目下幹事長をつとめさせて貰っている。幹事長2期目で会費納入者の拡大に取り組んでいるが悪戦苦闘中である。皆さんの知り合い卒業生の東京桑野会参加をよろしく願います。

(東洋大学常務理事)

ある日の授業の思い出

宗像和男(86期)

昨年3月、私は、フランスのパリにいた。その前の年、一週間程休暇をとって、イギリスとフランスを回ってきたが、今回は思いがけなく突然の出張であった。

前回の休暇でヨーロッパを訪れたのは、EC統合前のヨーロッパを見ておきたかったからである。また、それまでアジア諸国に行くことが多かったために、アジア専門と言われていた汚名を返上する(?)という意味もあった。

特にフランスでは、駅周辺を中心として大規模工事が続いている。また、私の訪れたパリの中心から少し離れたデファンス地区では、200mを超す建物が林立しつつあり、新しいビジネス街を形づくろうとしていた。滞在中、しばらくしてから、フランス人のある女性(同僚)と話をする機会があった。会話の中で、彼女は、

「フランスは、社会主義(政権)だから」と寂しげにポツリとつぶやいた。

案外知っていると自分が思っている身近な事柄さえも、見落としがちになるものだ。私は、何気ない一言によって、それまでつきまとって離れなかった異和感を、ある程度理解することができた。と同時に、卒業してから20年近くたった今でも強い印象として残っているある日の授業を思い出した。

たしか政治経済の授業だったと思う。クラスで討論形式の授業をしたことがある。論題は、「ベトナム戦争」。

その頃、北爆の激しさや、そこから逃げまどう人々の写真や記事が、新聞の政治経済面ににぎわっていた。しかし、三無主義全盛といわれた頃である。当時の高校生にとって、あまり愉快な話題とは言えず、積極的に話し合うことは、あまりなかった。

先生は、手書きしたB4版サイズのレジュメを渡ししながら、ベトナム戦争の経過と現在の状況について、手短かに説明されていた。そして、しばらく間を置いて、突然、こう言われた。

「ところで、この中で、自分の家が中流だと思う者は？」

ベトナム戦争という、当時の高校生にとっては重苦しい話題を題材としながら、突然、最も身近な事柄を質問してきた。演劇(文学)の技法に異化効果と言って、ある場面で、それと全く別のものを見せることによって、もとの場面を一層きわ立たせるという技法があるという。先生は、時々、こういった切り口の授業で、私達に刺激を与えてくれた。

そのうち一人、二人と手を挙げていったが、クラスの中で、唯一人だけ、「俺の家は、中流ではなく下流ではないかと思う。」という意味の論陣を展開して譲らなかった男がいた。

その後授業は、ベトナム戦争について肯定派と否定派に教室を分け、討論する形で進められた。

自分の考えを自分の言葉で、勇気と誇りを持って主張すること。安積に入学して得たものの中の一つであるが、毅然と言い放って席についた彼の姿とともに、今でも時々思い出す。

(ノートン(株)本社経理部経理課長)

各種貯油槽・圧力容器・製缶・化学プラント設計施工

W&O 興和鐵工株式会社

福島県郡山市富久町久保田字大久保63

電話 郡山 (0249) } 22-3840
32-3292
FAX (0249) 33-6104

代表取締役
荒井 孝一 (78期)

創造への実験を続ける 湯浅譲二

—「産経新聞」(’91/7/17付)より—

「クラシック音楽といわれている西洋音楽の歴史はせいぜい4,500年しかありません。作曲家の創造的見地から見れば、人類が生まれた時から音楽があるのです」と、音楽芸術の未来を見据える作曲家、湯浅譲二(61)。1950年代には前衛芸術家たちの総合芸術運動「実験工房」に参加するなど、これまでの活動は「創作者の存在意義は実験精神」を体現してきた。

湯浅は81年からカリフォルニア州立大サンディエゴ校音楽学部教授を務め、このほど一時帰国した。モーツァルトやベートーベンを聞き慣れた耳には、湯浅の音楽は違ったものに聞こえるかもしれない。「日本では行き掛かり上、バッハ以降の音楽が音楽のように言われています。その合理主義的な洋楽はすごく発展し、もちろんいいものです。しかしメディアの発達によって地球はますます小さくなっています」と、「現代音楽作曲家」は、「西洋クラシック音楽」の呪縛からの解放を語る。

福島県郡山市出身、慶応大学医学部を中退し、独学で作曲活動に入る。51年、作曲家・武満徹、美術家・北代省三らとともに「実験工房」を結成。当時の作品にデビュー作「二つのパストラール」「内触覚的宇宙」など。電子音楽では「ホワイト・ノイズによるイコン」や「ヴォイセス・カミング」、パリのIRCAM(音響・音楽の探究と調整の研究所)で創作した「セ阿弥・

九位」などがあり、作曲分野は幅広い。

20世紀は、12音楽、偶然性の音楽、セリー、クラスターなどさまざまな音楽語法を生んだ。「若いころ、ヴァレーズの(六つの管楽器とコントラバスのための)『オクタンダル』、クセナキスの『ピソクラクタ』、続いてリゲティの(マイクロ・ポリフォニーによる)『アトモスフェール』を聴き、こんな音楽があるのかと勇気づけられた」と、伝統的な西洋音楽を革新した作品にひかれたという。しかし今「大衆に受け入れられている前衛作曲家は見当たらない」(ジョンバーグ)といわれ、「実験の時代は終わった」という声も聞こえてくる。湯浅は「そんなことを言うのはいいかげんなまやかしです。芸術創造の上で実験の時代が終わると言うことはない」と語気を強める。

東京・銀座の佐谷画廊で現在、「実験工房と瀧口修造」展が開催中で、湯浅達の足跡がたどれる。51年11月、日比谷公会堂で開いた第一回発表会「ピカソ祭」の写真や、園田高広のピアノで演奏された「内触覚的宇宙」の楽譜などが展示してある。「後に傑作と認められた芸術作品が必ず拒絶されるというパターンはほとんど滑稽である。大衆性と芸術的な質とはまったく別の問題なのである」(リチャード・ムーア『音楽とテクノロジー』)。芸術家たちの創造はいつの時代も受け入れられにくい。湯浅も「大衆との乖離はある程度仕方がない」ともいう。

先日、客員教授を務める国立音楽大学のコンピュータ音楽センターで「コスモロジーとテクノロジーの間から」と題する講演会を開き、「人間の本质

と音楽の本质は同じもの。音楽を作る人間の本质とは何かに興味を持たないと、強く訴えかけるいい創造はできない」と強調した。

「音楽は聴いた人自身がどうとらえるかです。芸術は理解、分かる分らないではなく、何を感じたかです」。来月21日、欧米から4人の作曲家を招き、故郷、郡山市民文化センターで4回目の「インターナショナル・テクノ・ミュージック・ビエンナーレ」を開く。湯浅の実験はまだ続く。

(作曲家、国立音楽大学客員教授 59, 60期)

生命保険は選んでほしい

根来尚史 (91期)

みなさんはいったいどういう経緯又考えのもとに、ご自分の生命保険をお選びになったのだろうか。自信を持ってこれこそが私の理想のものであると言える方はいらっしゃるだろうか。

今、日本には31社の生保が存在し数えきれないほどの商品が出ている。しかし、つきつめると保険は3つの型しかないのである。3つの組み合わせと特約の組み合わせによって構成されているだけなのだ。生存保険(養老)、死亡保険(定期)、生死混合保険(終身)これだけとでもいい。判断基準として保険料を統一すると、死亡保険金の高さは、定期>終身>養老となり、満期受取金の多さは養老>終身>定期となる。この特徴を理解すると、保険の組み方が良く分かってくることと思う。養老は満期時までの死亡保障と貯蓄性の高さから、老後資金として、又定期



東北一円足まめに……。ふるさと商いは心です。
世界のトップファッションをネットワーク。

ふる里の肌ざわり 采女印製品
お店の繁栄 豊かな暮らしをリードする

総合衣料問屋

株式会社 大金

代表取締役社長 小針 良雄 (67期)

福島県郡山市喜久田町卸1丁目68の1
TEL (0249)59-6464

は、安い保険料で高い死亡保障が得られるから、若い年齢での方が一時的に家族の為となる。しかし掛け捨てだから貯蓄性は皆無となる。そして終身は、前述2つの中間的な性格を持つ。払込期間終了後も保障は99歳まで続く。貯蓄性もあり、老後の生活資金にも利用できる。しかし、終身保険だけで保険を組むと保険料が高い。顧客の立場からの要求は、いかに負担を少なく、保障を多く、貯蓄も高くということになるのだが、背反性のあるものをどうあがいても、一つにすることができないのが現状である。ライフプランナーとして腕の見せどころなのだが、いつも頭が痛いというのが正直なところである。可能な限りのデータをいただき、分析し、保険を組み立てる。もし保険料の上限がないのなら簡単なのだが、そうはいかない。お子さんが成人するのは、家のローンが終わるのは、貯蓄は、又相続はと、複雑なパターンでは、40以上の考察が必要になる。しかも短期に、ほとんどはお客様の目の前でレートブックパソコン、計算機と格闘しながら答えを出す。お客様が、ご自身とご家族の将来に真剣になってくださる時、この苦労は報われる気がする。

保険は難しく分らない。それはきつと、かつてしようとしなかっただけだと思う。選ぶ選ばないの差はとても大きい。高齢化が進み、社会保障の低下が進む今、自助努力のみが、将来に備えるすべてなのだから。高い買い物、生命保険、自分のニーズに合わせ、無駄のないものにするように、おすすめします。

(ソニー生命保険㈱ ライフプランナー)

中通りのまちづくり

櫻井 淳 (78期)

最近、東北新幹線に乗るのが、毎週のようにになりました。多くの人から定期券を買えばとか、事務所をこちらに置けばと言う真面目なアドバイスを受けるしまつです。これは、福島県内の「まちづくり」のコンサルに関係したことによる結果なのですが。

地方都市の商業系まちづくりのコンサルタントをはじめ、6~7年になります。郡山市の商業近代化計画にはじまり、白河市、福島市、二本松市、須賀川市と沿線沿いに拡大し、これが、中通り男と呼ばれる原因になったのですが、現在、三春町、米沢市、倉吉市(鳥取県)等も関係をしております。

私の基本的仕事の場所は、基本的に、首都圏が中心ですが、現在、仲間から、「アルコール依存性地方症」と呼ばれ、割りの合わない(コンサルフィーが安い)地方の仕事に動いております。

なぜ、地方都市かの問題ですが、今、地方都市の中心部は病んでいます。それは、車社会による街の郊外化が進行しております。例えば、中心部に住む老人は新鮮な魚が買えない、かつて歩いて行った魚屋は、郊外のスーパーに押され店じまい。賑わいの核になる文化施設も郊外に建設される。街の個性がなくなり、どこの街にもコンビニとスーパーが。中心部の神社や寺等個性的な憩いの空間もさびれ、かつての賑わいはありません。中心部の人口も減少しています。今度の日米構造協議

による大店法規制緩和は、多分これに拍車をかけるでしょう。個店の内半分はなくなると言われている位ですから。

なぜ、中通りか? 自分の生まれ故郷と言うことに対する「こだわり」、最大の動機は、その気質に対する支援の気持ちかもしれません。

概して、福島県民性と言いますか、自分の思ったことはなかなか表現しない。多くの検討はするが、すぐに行動しない。アドバイスをされていて、イライラするのですが、クールに見捨てられない。素直で、粘り強さがあるからです。(自分自身の気質でもある)

例えば、西の方の県・市は国の補助事業をうまく引張出す手法を臆面もなく活用するのですが、福島県の商業者は役所も含めて、ヘタクソです。

その原因の多くは、まちづくりに関する情報を行政と商業者が共有していないことにあります。行政は重要な情報を施行直前まで、商業者には流しません。そして、反対に遭遇します。

商業者は行政に対して、何かしてくれるだろうというあまい期待で待っています。役所は基本的属性として、要望がなければ動かないシステムです。

さらに、商業者が消費者に対するホスピタリティ(感謝の気持ち)が基本的に欠けていることです。

以上のことを思いつつ、地域の個性を生かした「まちづくり」のアドバイザーとして、また、安積高校出身であると言う自負を持ち、今後とも、出来るだけ「中通りのまちづくり」を支援して行くつもりであります。

(櫻井淳計画工房代表)



株式会社 櫻井淳計画工房
J. SAKURAI PLANNING ASSOCIATES

櫻井 淳 (78期)

〒150 東京都渋谷区桜丘29-24 秀和桜丘 707 PHONE. 03-3462-4161~2 FAX. 03-3462-4163

企業のリクルーティング・教育・販促PRビデオの制作
教育研修の企画制作は当社にご用命下さい。
経験豊富なスタッフが対応致します。



株式会社リュウコーポレーション

代表取締役 渡辺 隆一郎 (81期)

〒151 東京都渋谷区初台1-47-4 第2加藤ビル4階

☎ 03(3373)7590 FAX 03(3320)8218



水口荘介先生 画

“本づくり”の最初の一歩からお手伝いします。

自費出版のすすめ

●自伝●エッセー●旅行記●小説集●同人誌●詩集●画集
●句集●趣味の本etc.

- コンセプト作りの段階から編集・校正・デザイン・印刷・製本まで、一冊の本が生まれてくる過程をいっしょに楽しんでみませんか?
- テープ起しやフロッピーからの編集もいたします。
- ご予算は200~300部(上製本)で約130万円から。(コンセプト作りから始めた場合——ページ数や他の要素で多少値段は異なります。)

編集・印刷コーディネイト・情報デザイン

株式会社 **PAN OFFICE**

パンオフィス(担当:川鍋まで)

☎03-5608-2159, FAX 03-5608-9745

東京都墨田区東駒形3丁目1-1 田中ビル1F 〒130

「毛沢東と周恩来」
矢吹 晋氏 (70期) 著の紹介記事

マルクス・レーニン主義の没落を目にした今、なぜ毛沢東と周恩来なのか。著者は民主化に向かう激動のソ連・東欧に対し、民主化を求める者に銃口をむけた「人民共和国」の現実の意味を問うためだと言う。また新資料が公表され始めて、素顔の二人が書ける状態になったという理由を挙げる。

事実、ここに描かれた二人の偉大な指導者は、「田舎っぺ皇帝と気配り宰相」という、神秘のベールを脱ぎすてた人間である。現在の中国の課題を、よかれ悪しかれ残して逝った二人の役割を語る。(講談社現代新書)

(1991/12/22付 朝日新聞より掲載)



水口荘介先生 画

事務局
〒160 新宿区新宿1-3-8
TKB 新宿御苑804
斉藤法律事務所内 東京桑野会事務局
TEL 3356-6677 (FAX 3356-6678)

事務局だより

■東京桑野会会員名簿について

会報発行とともに会の永遠の課題である「名簿改訂」については、今年度中に印刷物という形に完成出来ずお詫び申し上げます。年間の追加・修正分は今回の会報発送にも反映されていると思います。住所氏名等誤りがありましたら、事務局までご一報お願いします。

90期以降の会員の情報を是非お寄せ頂き、会員の環をますます拡げたいと思います。

■「安積健児の像」レリーフについて

「会員動向」にご紹介のように、佐藤静司氏制作の「安積健児の像」をレリーフ化したものを東京桑野会特製として頒布しております。

- ・申込先 事務局
- ・頒布 30,000円

■「朝河貫一書簡集」について

11号・12号でお知らせの通り「朝河貫一書簡集」が、1990年10月に予約出版のかたちで刊行されました。東京桑野会で購入した分の在庫が若干あります。

- ・申込先 事務局
- ・頒布 20,000円

■「80年代の不動産」進呈について

並木譲氏(63期)から、自費出版された著書「80年代の不動産」100部を東京桑野会宛にご寄贈を戴きました。

4月の定期総会ご出席の先着100名の会員の方に進呈したいと思います。

■前回の総会で役員改選が行なわれ、

前ページに役員名簿を掲載しました。主なものとして、副幹事長として丹治則男(81)が新たに加わりました。

編集後記

■矢吹・高田の両大先輩のご逝去を悼み、会へのご指導とご貢献に感謝いたします。数ある会報へのご寄稿の中から矢吹先輩の『中国の盟主の信義 胡耀邦総書記との対面』(4号)と高田先輩の『筆友・信也を偲ぶ』(10号)・『選挙の三バンは私有財産か』(12号)を読み返しました。改めて内容の高さに感激しました。(67期 水口 禎)

■高松氏(74期)が水田先生のスケッチブックをおかりしたものが今回の表紙になりました。先生の肉筆をなつかしく拝見できました。詩人の菊池氏(55期)の文章はさすがに安積だなーと感じ入りました。(78期 櫻井 淳)

■会報の編集に関係してから7~8年が過ぎようとしています。かつて櫻井さんを“鬼”とか“人買”とか評したことがありますが、今回は何を言われようとも“仏”に見えます。水口さん、櫻井さん今後とも“仏”でありますように! (85期 村上昌弘)

■校正作業での誤字・脱字の発見に一番の貢献をしたと思っています。同期の方から2本の原稿をいただき、御活躍の様子を知って、考えさせられ発奮させられました。(86期 坂本浩一)

■母校の新卒業生には『東京桑野会へのお誘い』特別版をお送りしました。来年度は念願の、卒業式前発行を実現したいと思います。(広報部)



五十嵐冷蔵株式会社

(冷蔵・冷凍食品・低温運輸の総合エンタープライズ)

**FROZEN
FOOD**

〒108 東京都港区芝浦2-10-5

TEL 03(3451)1111 (大代表)

テレックス 3242-4442

東京桑野会会員 専務取締役 吉田弘俊 (第52期)